

# TRAFFIC SCOPE

交通参加者の行動を観察する

「TRAFFIC SCOPE」は交通参加者の行動観察を通じて、ドライバーやライダー、自転車利用者、歩行者を守るべきルールがあることを再認識してもらうための連載記事です。

## 安全運転を阻害する運転中の「ながらスマホ」は絶対にしてはいけない！

### DATA 基礎情報

「ながらスマホ」に起因する交通事故が増えている

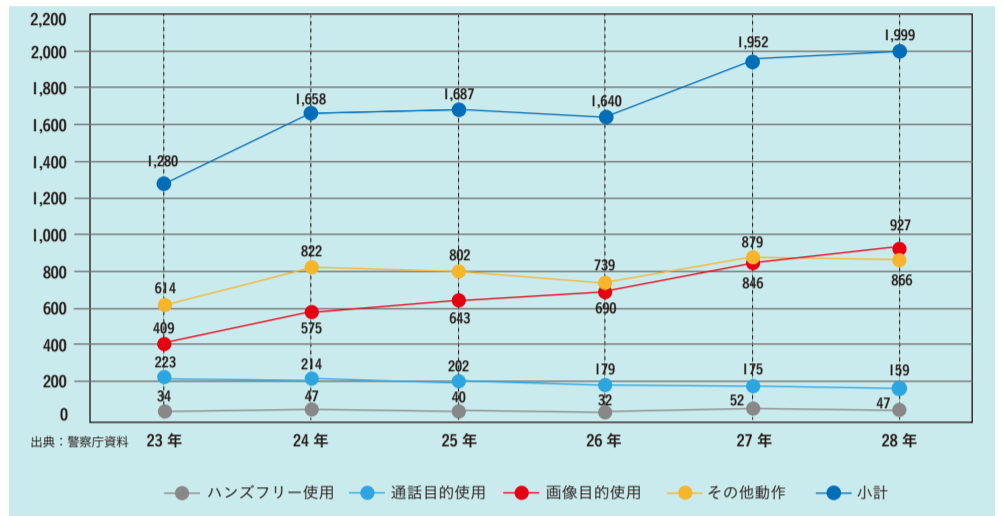
警察庁の調べによれば、平成 28 年中の携帯電話使用等に係る交通事故は 1,999 件発生しており、5 年前（平成 23 年）の約 1.6 倍に増えている（グラフ参照）。特に、スマートフォン（以下、スマホ）等の画面を見たり操作して起きた画像目的使用の事故は約 2.3 倍となっている。平成 28 年には愛知県でスマホを操作しながら

ら運転していたトラックに横断歩道を渡っていた小学生がはねられ、死亡するという痛ましい事故が起きた。また、平成 29 年には名神高速道路でスマホを見ながら運転していたトラックが渋滞で停止中の軽自動車に追突し、軽自動車に乗車していた高齢夫婦が亡くなるという事故も発生している。このように運転中、スマホを注視・操作する、いわゆる「ながらスマホ」に起因する交通事故が増加傾向にあり、重大事故にもつながっている。



スマホで通話しながら運転しているドライバー

#### ●原付以上運転者（第 1 当事者）の携帯電話使用等に係る交通事故の発生状況



### WATCHING 観察

信号待ちでスマホを手にとり、注視・操作するドライバー

実際に、東京都内の幹線道路でドライバー・ライダー・自転車利用者の運転中（信号待ちの停止中含む）のスマホの使用状況を観察した。2 時間の観察の結果、ドライバーは 65 人、ライダー 3 人、自転車利用者 6 人がスマホを使用していた（右表

参照）。使用状況で多かったのは、信号待ちでの画面の注視である。これはスマホを地図として使い、目的地までのルートを確認するためではないかと思われる。中にはスマホではなく、ノートパソコンを見ながら運転している人もいた。信号待ちで操作を始めるドライバーは、前車が発進してから遅れて追従し、クルマが動き出したから慌てて操作を終了するケースが目立った。



信号待ちでスマホを操作するドライバー

### ADVICE アドバイス

便利なスマホだが、運転中は使用しない

運転中にスマホを使用する人は「ほんの一瞬だから大丈夫」と安易な考えを持っているのではないだろうか。一瞬といえどもスマホの画面に意識が集中することで、前方に停止しているクルマや道路を横断する歩行者がいた場合に発見が遅れ、それが事故につながることもある。「ながらスマホ」は、思っている以上に危険な行為であることを再認識してほしい。今回観察した明治通りは片側 2 車線の幹線道路だが、神宮前交差点付近では

横断歩道以外の場所を渡る歩行者も散見された。見通しの良い幹線道路でも歩行者の横断があるかもしれない。「ながらスマホ」によって、こうした歩行者の発見が遅れることも考えられる。また、ハンズフリー使用による通話も視線は前方に向けられているが、意識の脇見となることがあるので注意が必要といえる。スマホは私たちの生活や仕事に欠かすことのできないとても便利なツールだ。しかし、運転中のスマホ使用は道路交通法違反となるだけでなく、脇見運転の要因となり、たいへん危険である。ドライバー・ライダー・自転車利用者は運転する時、スマホを使用することなく、運転そのものに集中できる環境を自らつくり出してほしい。

#### ●観察結果

	スマホ・携帯電話使用			スマホ・携帯電話未使用	総数
	注視	操作	通話		
ドライバー	29(7)	27(6)	9(4)	528	593
	65(17)				
ライダー	1(0)	2(0)	0(0)	28	31
	3(0)				
自転車利用者	3(0)	1(1)	2(1)	59	65
	6(2)				
合計	74(19)			615	689

※( ) 内は走行中に使用。ドライバーはタクシー・バス除く。

観察場所／東京都渋谷区 明治通り 神宮前交差点付近  
 観察日／3月26日(月)  
 観察時間／15:00～17:00  
 天候／晴れ



信号待ちでスマホを操作するライダー



携帯電話で通話しながら走行する自転車利用者



スマホを操作しながら車道を歩く歩行者もいた



横断歩道以外の場所を渡る歩行者も少なくなかった